

「かかりつけ医
検索システム」の導入

contents

- ・脳梗塞治療への取り組み
- ・地域連携研修会の報告

山梨県立中央病院 医療連携 だより

NEW

「かかりつけ医 検索システム」 を導入しました。

身近に相談できるお医者さんとの連携でいつでも安心



患者支援センター
統括部長

井上 正晴

平素より、当院との医療連携につきましては、ご理解とご協力を賜り深謝いたします。

当院は山梨県の基幹病院として、各診療分野において高度専門的医療を行なうと共に、救急医療・周産期医療・がん医療等に力を入れております。病院の特徴を生かして、急性期医療を担い病状が安定しましたらその後は地元の医療機関で診ていただく、逆に、病状が変化し急性期医療を必要とする患者さんは紹介していただく、といった医療機関の機能分化を行なうために「かかりつけ医」を持つことの推進を行なっております。

このたび、当院では患者さんが適切に「かかりつけ医」を選んで頂けるように「かかりつけ医検索システム」を導入いたしました。

今後も病診連携・病病連携を強化し、地域医療支援病院としての役割を果たしていきたいと思っております。また、患者さんが遅滞なく適切な医療が受けられるように努力してまいりますので、先生方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

画面を見ながらタッチ操作。
地域別、診療科別・電話番号、
地図等の情報から病院を検索
できます。



「かかりつけ医」のリーフレットを印刷できます。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1
TEL.055-253-7111/FAX.(直通)055-253-2903

Topics

脳梗塞治療への 新たな取り組み

Recent treatment for cerebral infarction

脳梗塞に対しての最近の治療



中央診療部統括部長
脳神経外科

中野 真

脳卒中は心臓疾患、悪性新生物（癌）と並ぶ3大疾病の一つです。脳の血管が突然に異常をきたす疾患の総称で、脳血管障害とも言います。成人の死亡原因の4位ですが、救命できても、半身麻痺などの後遺症が残る要介護の生活となってしまうことが問題になります。

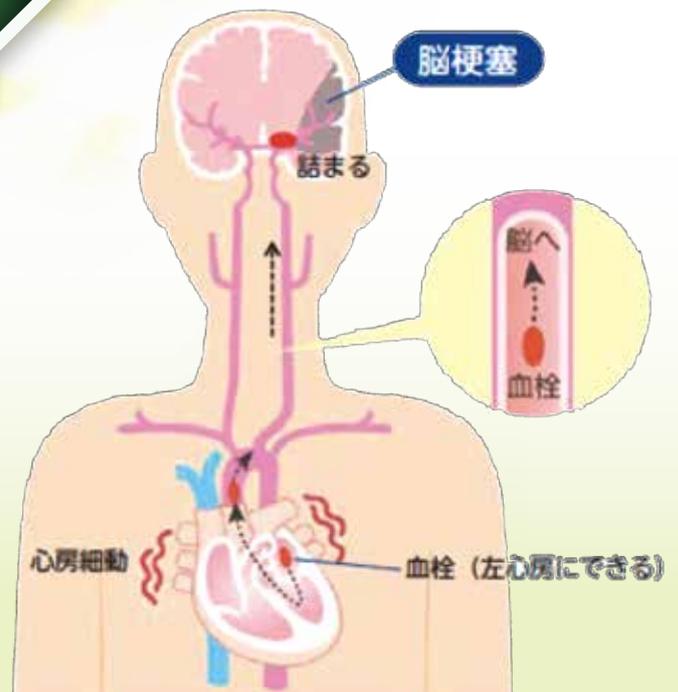
脳卒中の中でも、近年、患者数が増加しているのが脳梗塞、特に不整脈が原因となる心源性脳塞栓症です。最近、この心源性脳塞栓症に対して新たな治療が行われています。

CHECK 1

What is cardiac cerebral embolism

心源性脳塞栓症とは

心臓に不整脈があると、血流の淀みができて心臓内に血栓という血液のかたまりができてしまいます。この血栓が血流に乗り、脳の動脈に詰まってしまうのが心源性脳塞栓症です。原因となる不整脈は心房細動というものが多く、高齢化社会になり、この心房細動を持っている方が増えています。通常、脳の太い血管に詰まり、突然の強い半身麻痺や言語障害で発症し、突発発症型の脳梗塞と言われます。多くの方が半身麻痺、言語障害が後遺症として残ってしまいます。



CHECK 2

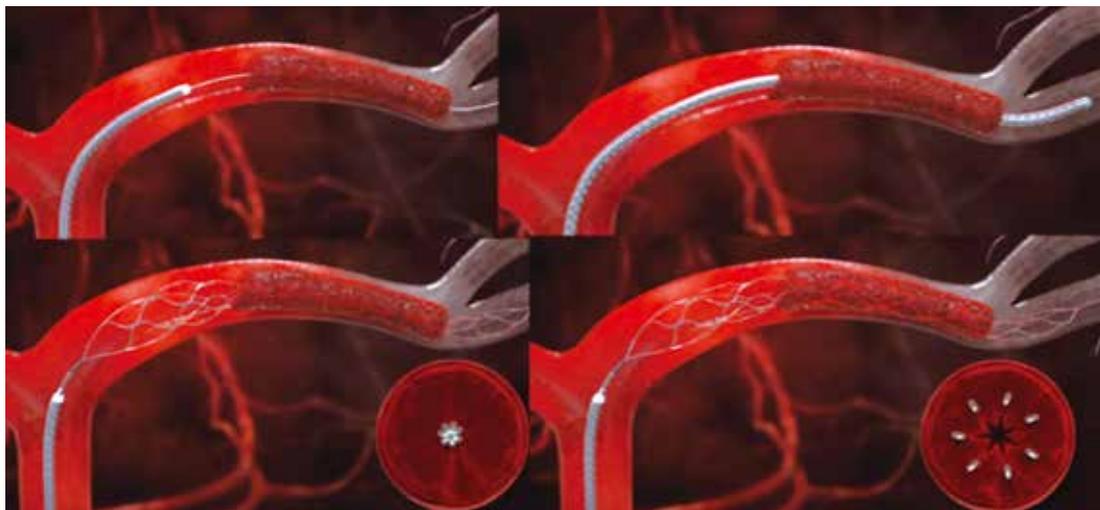
tissue plasminogen activator t-PA (組織プラスミノゲン活性化因子)

2005年に使用可能となった強力な血栓溶解薬です。発症から4.5時間以内の脳梗塞に使用します。特に心原性脳塞栓症に効果が高いといわれています。通常の点滴治療で行いますので、簡便ですが、本当に効果が表れるのは10%程度の方です。この治療は、広がってはいますが、十分に満足いく治療とはいえないのが現状です。

Stent type blood clot retrieval device 機械的血栓回収療法

tPAの効果が不十分であるため、2012年以降、様々な治療法が開発されました。多くはカテーテルという細いチューブを血管内に入れ、血栓を直接回収する方法です。様々なタイプの医療器具が開発されましたが、なかなか効果のあるものはありませんでした。2015年、ステント型血栓回収器具の治療成績が公表され、他の方法と比べ、血栓回収の能力が高く、これを使用することにより、多くの患者さんの半身麻痺を改善することが可能となりました。

図のように血管に詰まった血栓の中にステントという小さな金網状のものを絡ませ、直接、血栓を除去する方法です。



当院でも2017年5月よりこの治療を行なっています。これまで約30例の患者さんに治療を行ないました。それまでの心原性脳塞栓症になった方は80%以上で重度の後遺症が残っていましたが、この方法を行なった方は約半数で半身麻痺が改善し、介護のいらぬ生活に戻っています。

Rehabilitation cooperation of stroke 脳卒中のリハビリテーション医療連携

当院ではこのような脳卒中の急性期治療を積極的に行っています。しかしながら、全ての半身麻痺の患者さんを救うことはできません。当院で治療を行なっても半身麻痺が残ってしまった方には発症数日後から、リハビリテーションを開始しています。2週間の急性期治療終了後は、県内にあるリハビリテーション専門施設と連携し、できるだけ元の生活に戻れるような医療体制を作っています。

2017

12.6 WED

「みんなで考える!冬の在宅感染対策」
～インフルエンザとノロウイルスについて～



平成29年12月6日
(水)、当院多目的ホー
ルにて、甲府在宅ネッ
トワークとの共催に
より、地域連携研修会
が開催されました。

当院総合診療科 日向佑樹医師による感染対策に関する
講義と、グループワークが行われました。

院内外から多くの方のご参加をいただき、グループワ
ークでは、多職種間で大変活発な意見交換がなされました。

ご参加いただいた方々から、「多職種の立場から色々な
感染対策への意見を聞くことができ今後役に立つ学びが
できた」等の感想をいただきました。

2017

12.14 THU

「脳卒中の診断、治療とその予防」

平成29年12月14日
(木)、当院多目的ホール
にて、地域連携研修会を
開催しました。

当院脳神経外科 中野真
医師が、「脳卒中の診断、
治療とその予防」と題して講演いたしました。



脳血管障害の分類と説明、脳梗塞のカテーテル治療、地
域連携パス、予防のために危険因子の治療の必要性を説
明しました。

参加者からは、「平易な言葉での説明で分かりやすかつ
た」「改めて脳卒中の再認識できた」「最新治療について理
解を深めることができた」などの感想を頂きました。

地域連携研修会が
開催されました

2018

2.1 TUE

「二次予防高リスク病態に対する厳格なLDL-C管理」
～動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版改訂～

「当院における動脈硬化性疾患治療の取り組み」
～二次予防/糖代謝異常に関連して～

平成30年2月1日(木)、当院多目的ホールにて、順天堂大
学大学院医学研究科 循環器内科 准教授 大村先生をお招き
して、動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版を中心に、
家族性高コレステロール血症及び心血管疾患二次予防に対
する脂質管理の重要性についてご講演いただきました。

また、当院循環器内科 原間医師により、当院における動脈
硬化性疾患治療の取
組みについてもご講演
いただき、ご参加いた
だいた方々から、活発
な質問や意見があげら
れ、日常の診療に役立
つ内容であったとご好
評いただきました。



今年度も、院内・院外に向けた連携のための研修会
を定期的開催いたします。その都度ご案内させて
いただきますので、是非ご参加ください。

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、
かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。
体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。
紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

1

かかりつけの
医院を受診

紹介状をもらって
ください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)